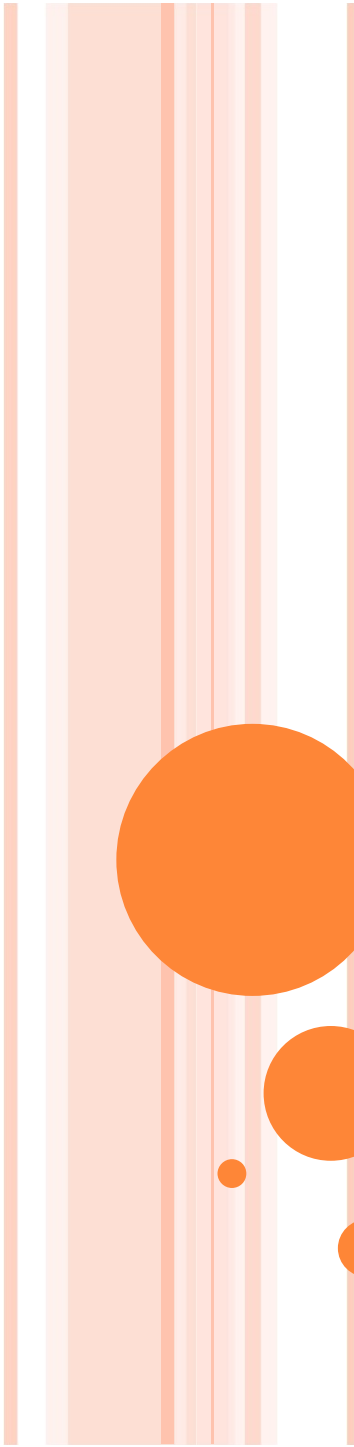
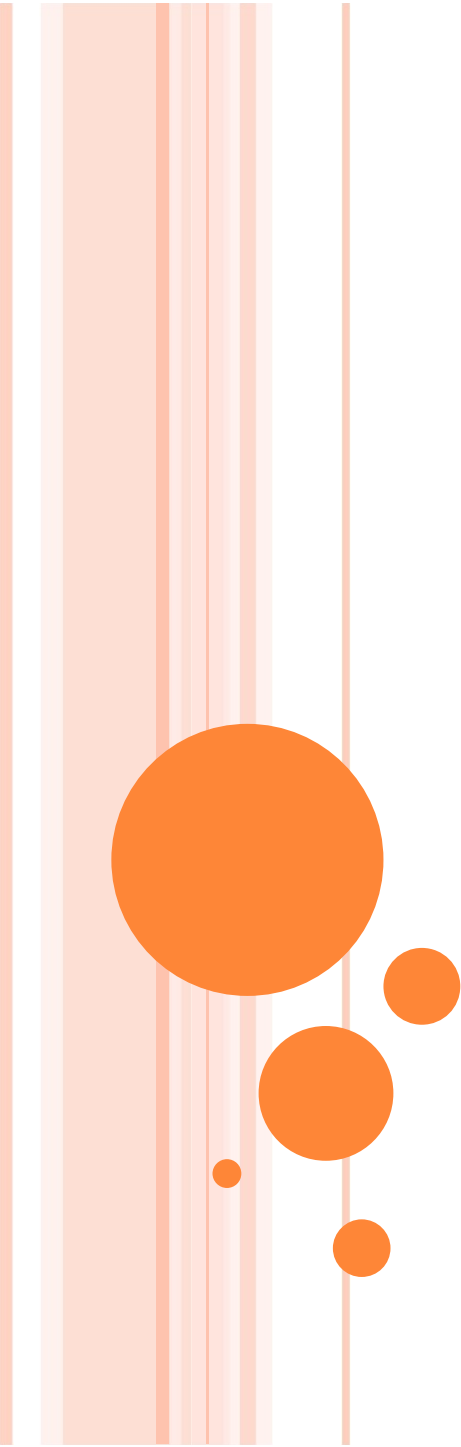




古代因幡における土器・陶磁器の移動

鳥取県埋蔵文化財センター 八峠 興

2020年2月14日(金)



はじめに

- 古代の土器に関わる文献史料
- 移動する土器・陶磁器
- 出土傾向

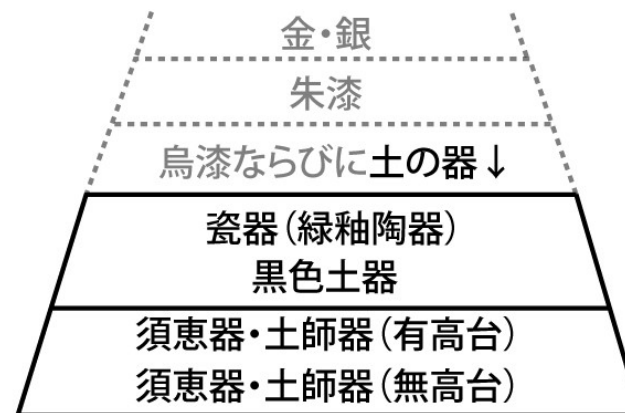
おわりに

○ 史料1 『延喜式』の記述(10世紀に成立)

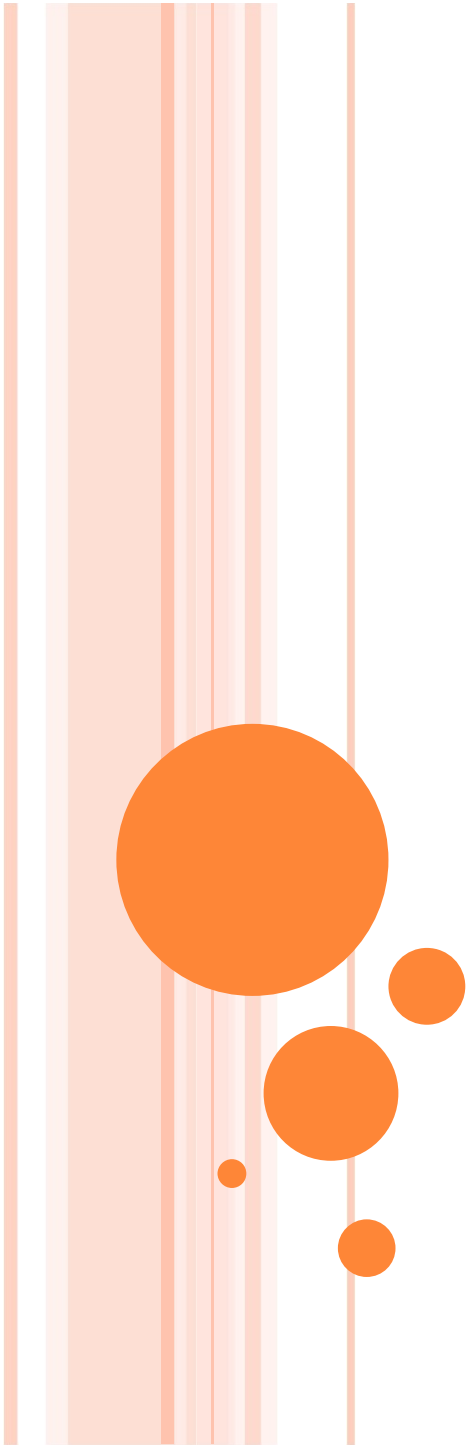
史料1 『延喜式』の記述(抜粋)

No.	延喜式	箇所	器についての記載(抜粋) ※一寸=2.97cm=10分(和同六年制)
1	卷第二十四	主計上1	凡そ左右京・五畿内の国の調、…土師の器は、…酒盞・汁漬の杯は各二十合<各口径五寸、五合を受く>、中片杯七十五口<径六寸、四合を受く>、吐盤三口<径一尺八寸>。杯作土師の酒盞六十合<径五寸>、小高盤四十八口<高さ五寸、径六寸>、中片杯一百九十九口<径六寸>。…
2	卷第二十四	主計上51	播磨国…調、…様の筥坏・凡の坏各八十口、椀五百五十合、片椀百五十二口、…椀の下盤五十口、深杯五十九口…
3	卷第二十四	主計上62	讃岐国…調、…埴四十口、麻笥盤五十口、大盤十二合、大高盤十二口、椀の下盤四十口、椀三百四十口、…
4	卷第三十二	大膳職上7	饗宴の雑給…その雑の器は新王已下三位已上は朱漆、四位已下五位已上は烏漆ならびに土の器。
5	卷第三十九	内膳司24	供御の料の雑の器…金・銀・朱漆・瓷の雑の器。

- 器種や寸(約3cm)単位の法量により食器や酒器、容器など、儀式に使う器の数や種類など決められていた
- 階層により使う器の素材が異なる



○ 図1 『延喜式』にみる
器の階層



2 移動する土器・陶磁器

3 出土傾向－因幡地域－

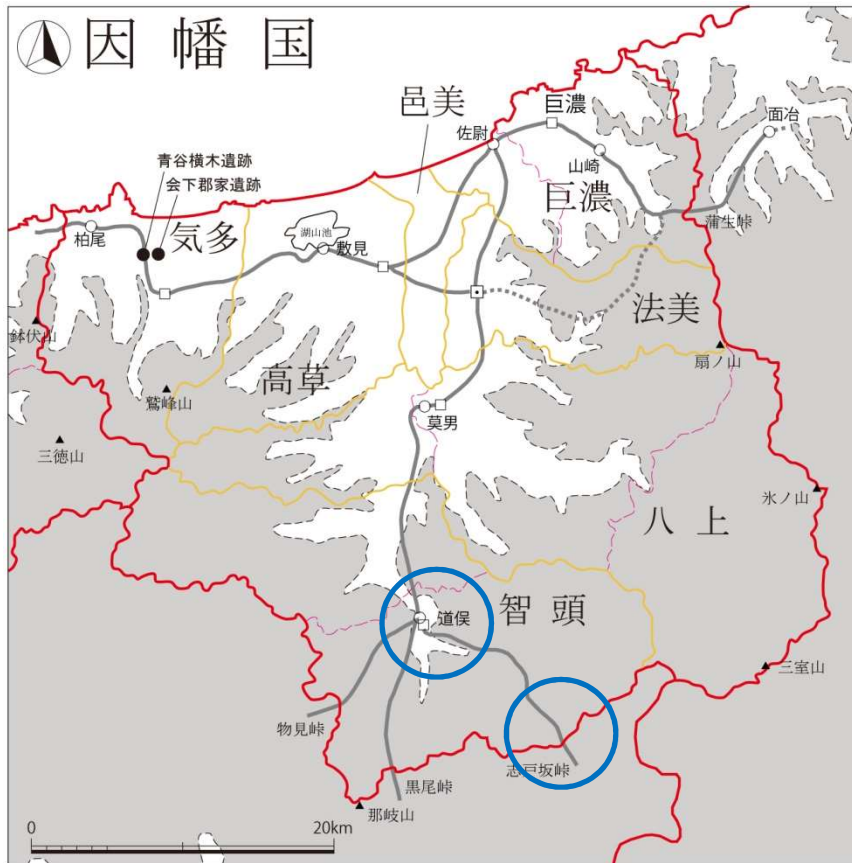
- 奈良時代から平安時代前半頃: 律令的土器様式(都の土器に形や大きさを合わせる)←各地の個性

※ あくまでも地元の生産

- 土師器や須恵器でも他の地域から持ち込まれた土器: ①形の違い ②作り方の違い ③土の違い ④時代の違い
- 平安時代のうち9~11世紀について、因幡地域の手づくね土師器、黒色土器、施釉陶器(緑釉・灰釉陶器)、他地域産の須恵器の集成を行い、分布の状況を検討する

- どの時期にどのような地域の器が使われたのか?
- どのような経路なのか?
- その要因は何か?





○ 史料2 『時範記』 の記述

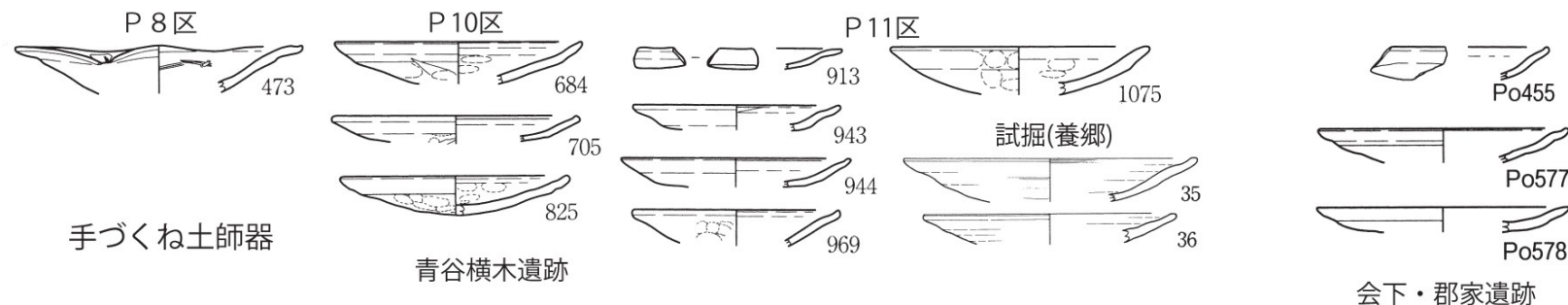
史料2 『時範記』の記述（抜粋） 承徳三 (1099) 年二月

九日：向山城…。十日：摂州武庫郡…。十一日：明石駅家、…。
十二日：高草駅家、…。十三日：佐余、…。十四日：美作国境根
飯屋…。十五日：越鹿跡御坂、未出峯下馬、立峯上、西面、官人
以下立峯下、南面、先是神宝前行、事相従…。已尅至于智頭郡駅
家、簾中居饌、先食餅、先啜粥、…入夜着物社西飯屋、…。

- 平時範の日記：二月九日に出発して十五日まで七日
- 正規の山陰道を使用していない

※鳥取県史(1972年)の推定ルート

○ 図8 手づくね土師器出土遺跡



○ 図2上 手づくね土師器





12 河川出土 平安時代 供膳具

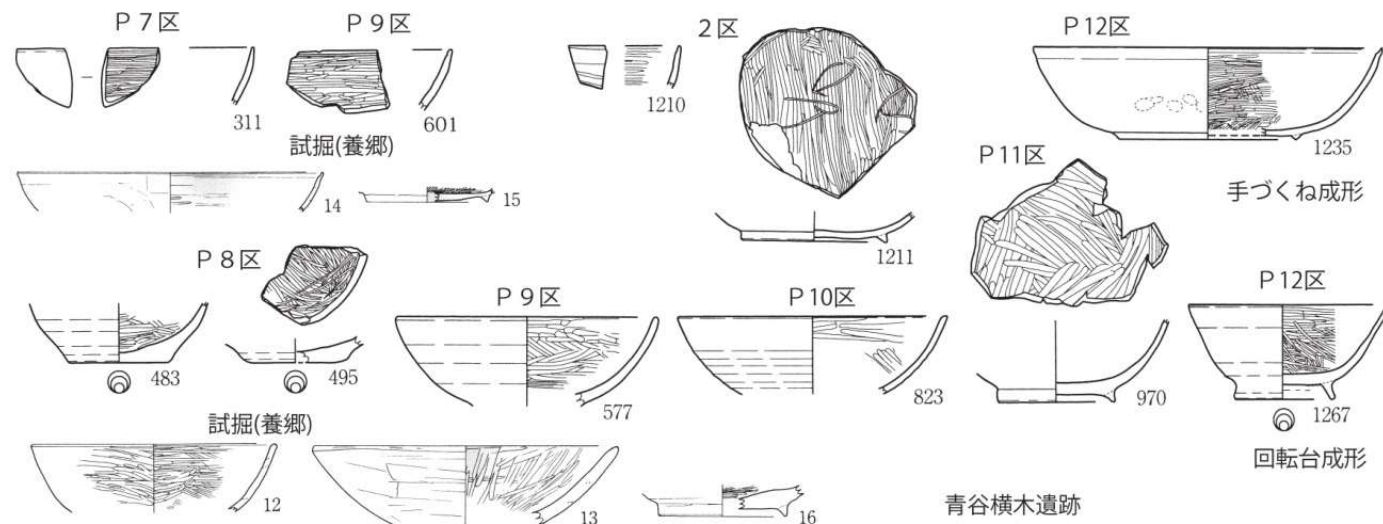
- 土器を煤で燻し、工具による磨きで吸着させた土器
- 内面を磨く内黒黒色土器が主



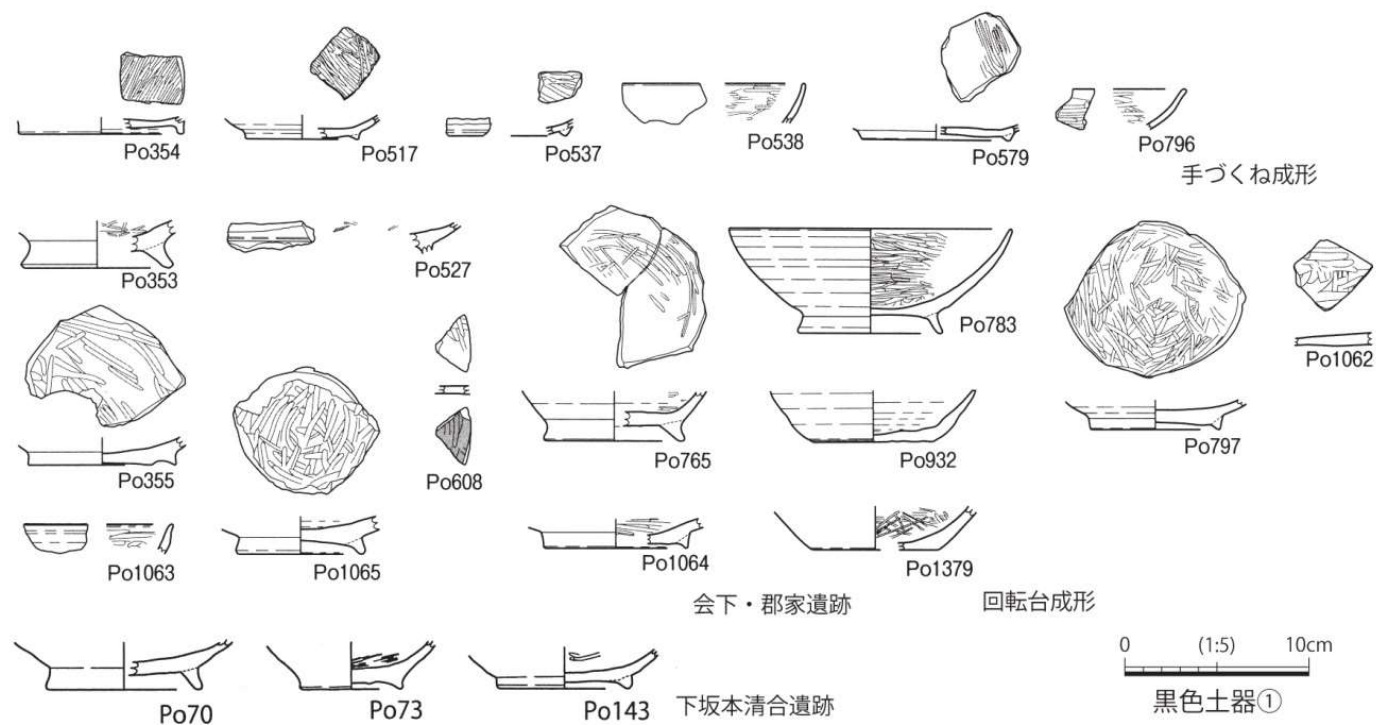
2 P10・P11区道路1 道路外盛土出土土器・陶器



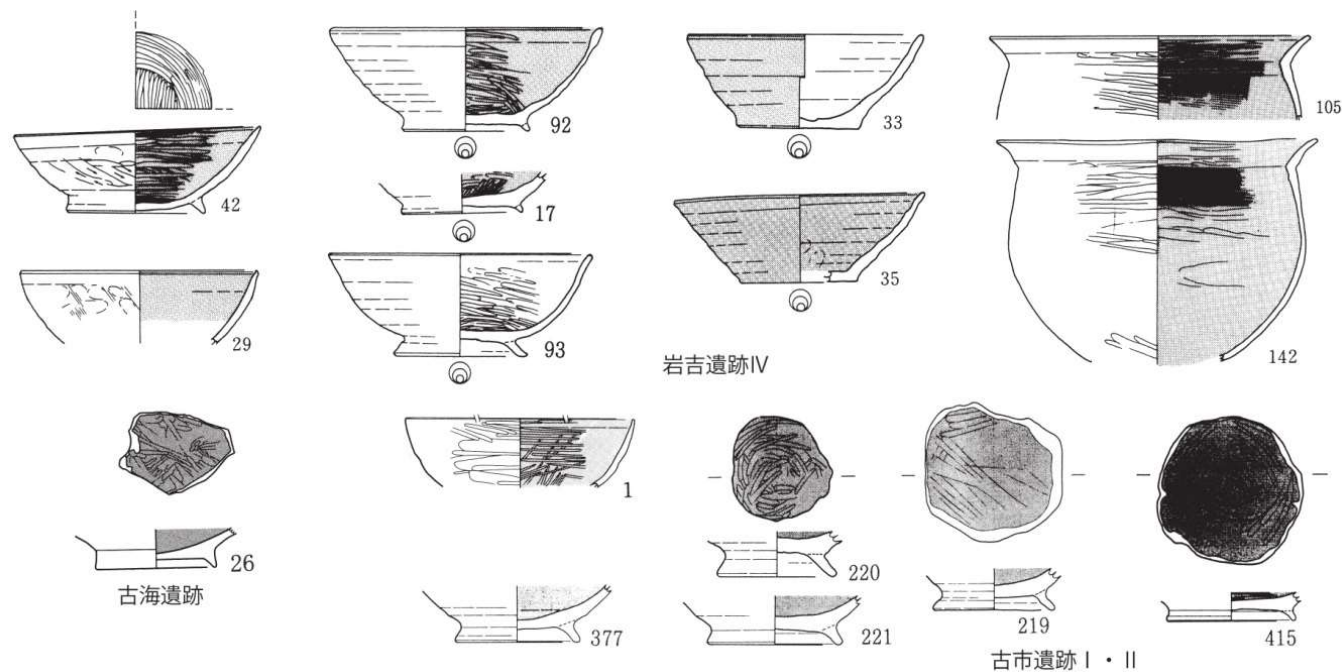
SD 2 出土遺物



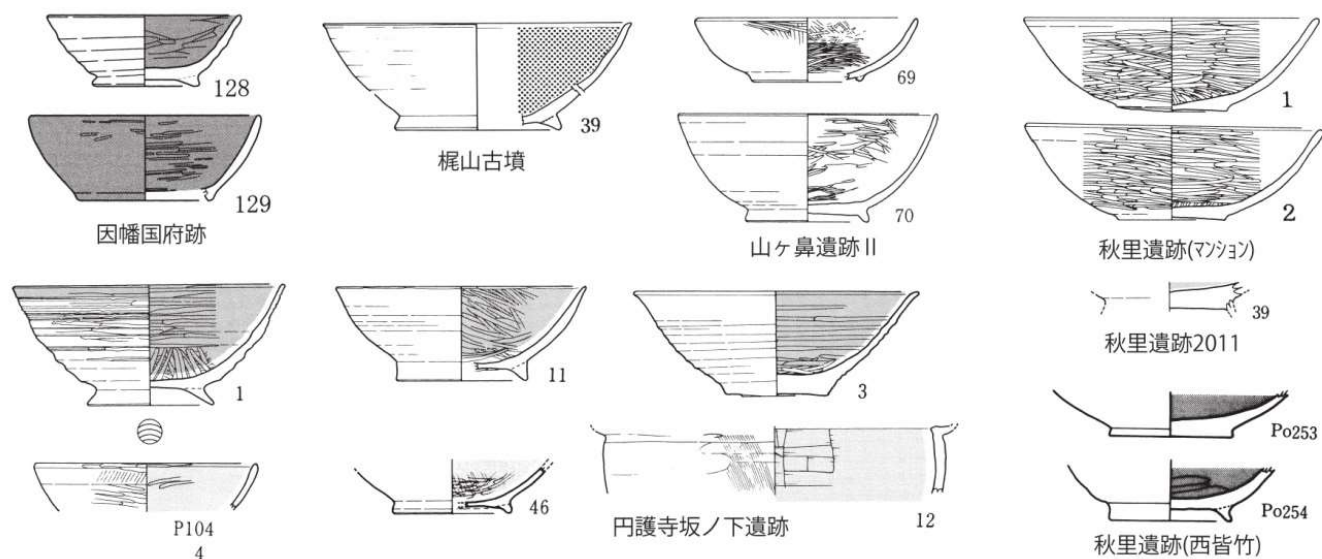
○ 図2中
黒色土器



○ 図2下
黒色土器



○ 図3上 黒色土器

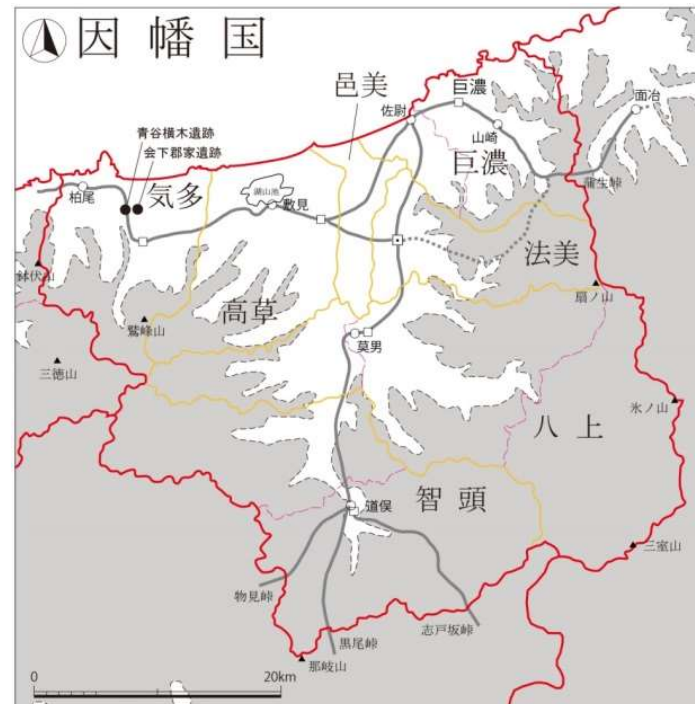
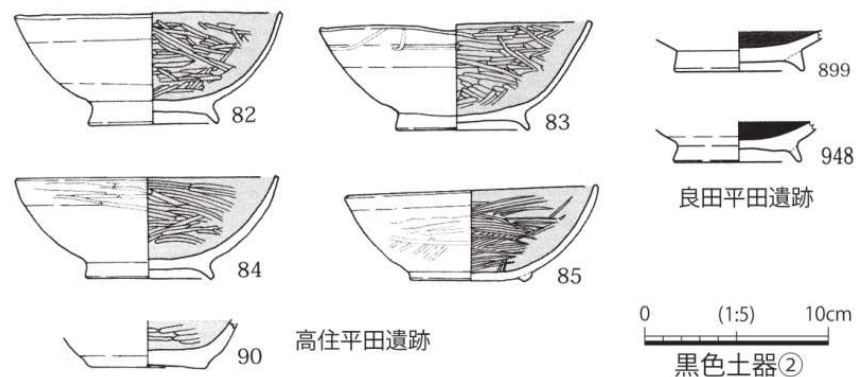


○ 図3中 黒色土器



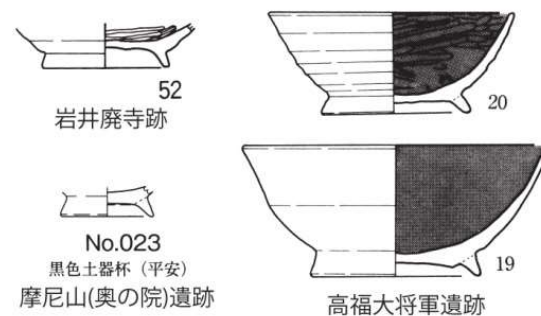


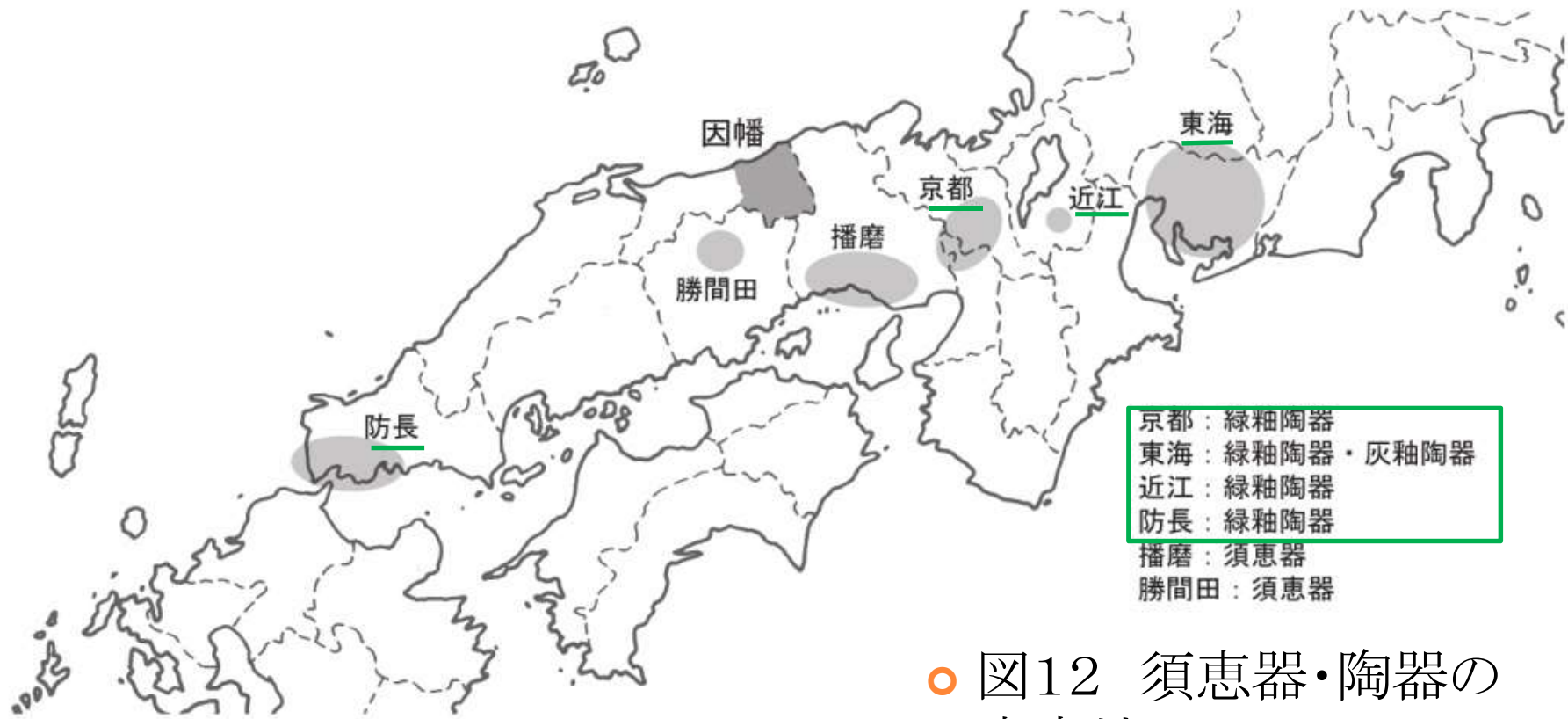
○ 図9 黒色土器出土遺跡



○ 図8 手づくね土師器出土遺跡

○ 図3下 黒色土器

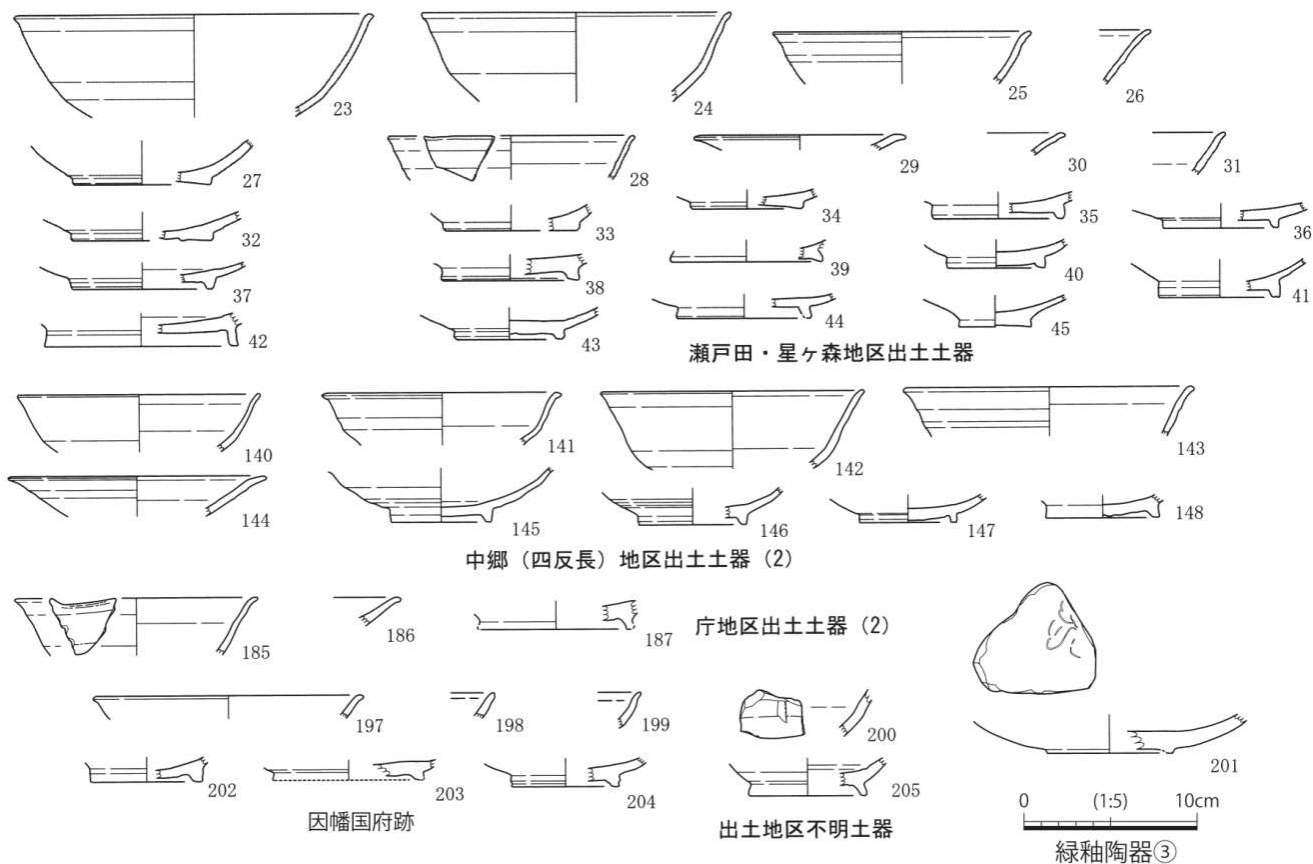




○ 図12 須恵器・陶器の生産地

- 緑釉陶器は鉛や銅を釉薬とする。低火度(800度程度で焼成可能)、生産地は京都・東海・近江・防長
- 灰釉陶器は木灰を釉薬とし、主に東海地域で生産、1200度程度の高温が必要

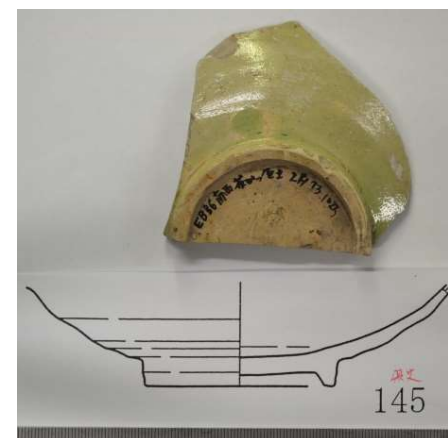




○ 近江



○ 京都

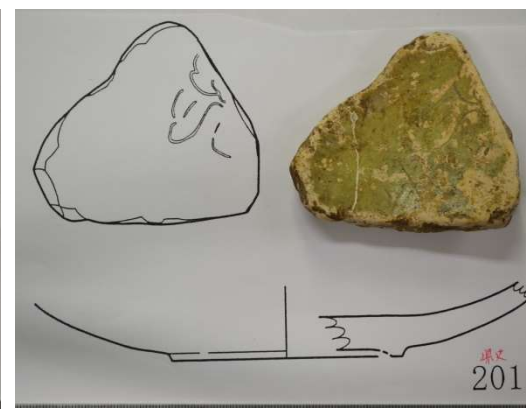
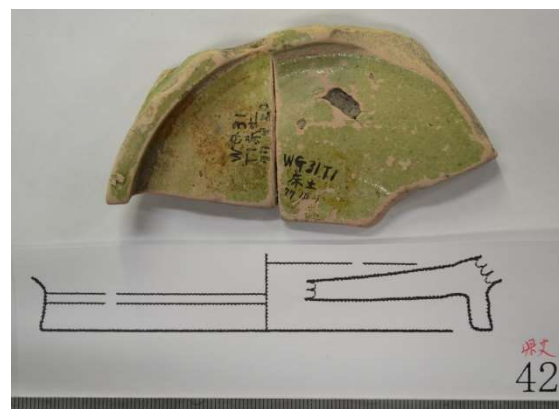
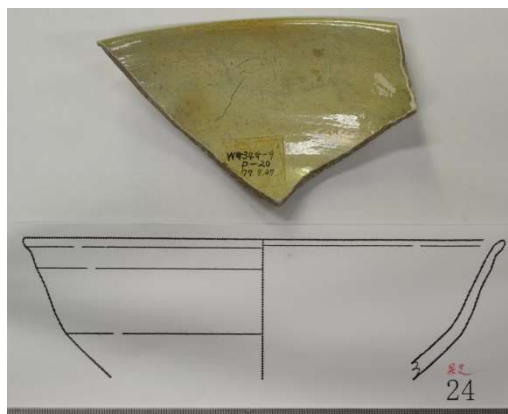


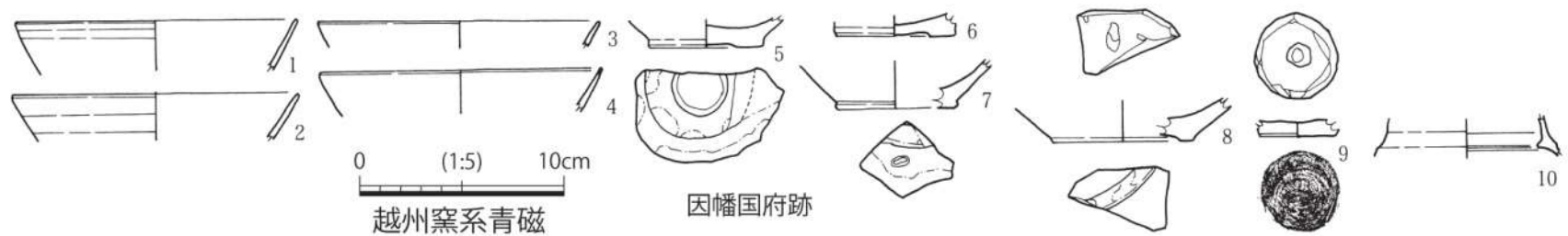
○ 京都

○ 図6中 緑釉陶器

○ 東海

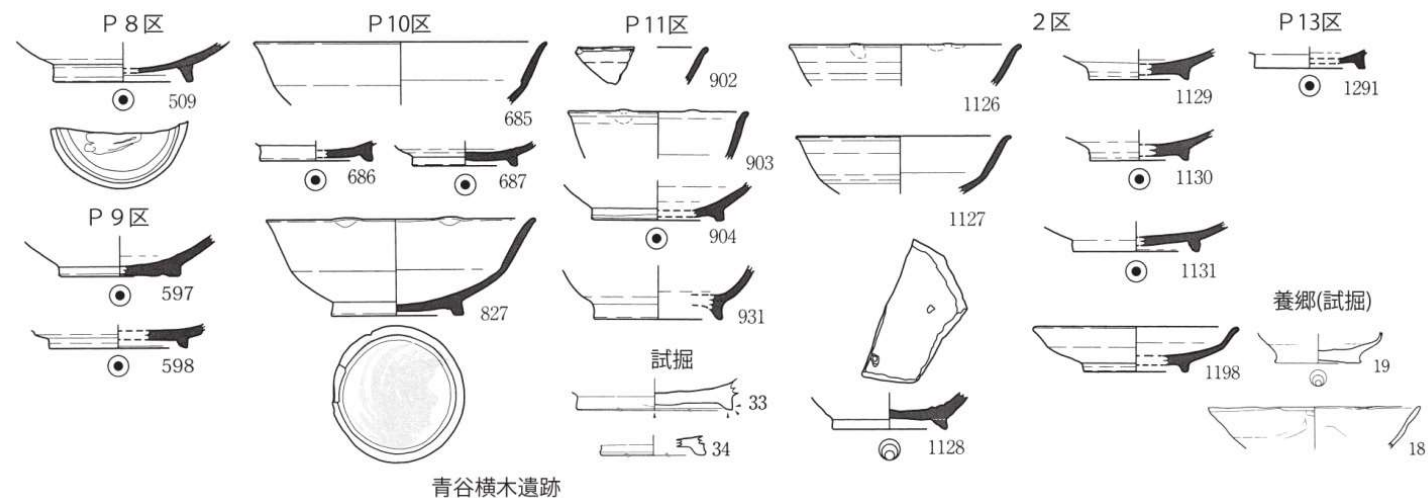
○ 東海



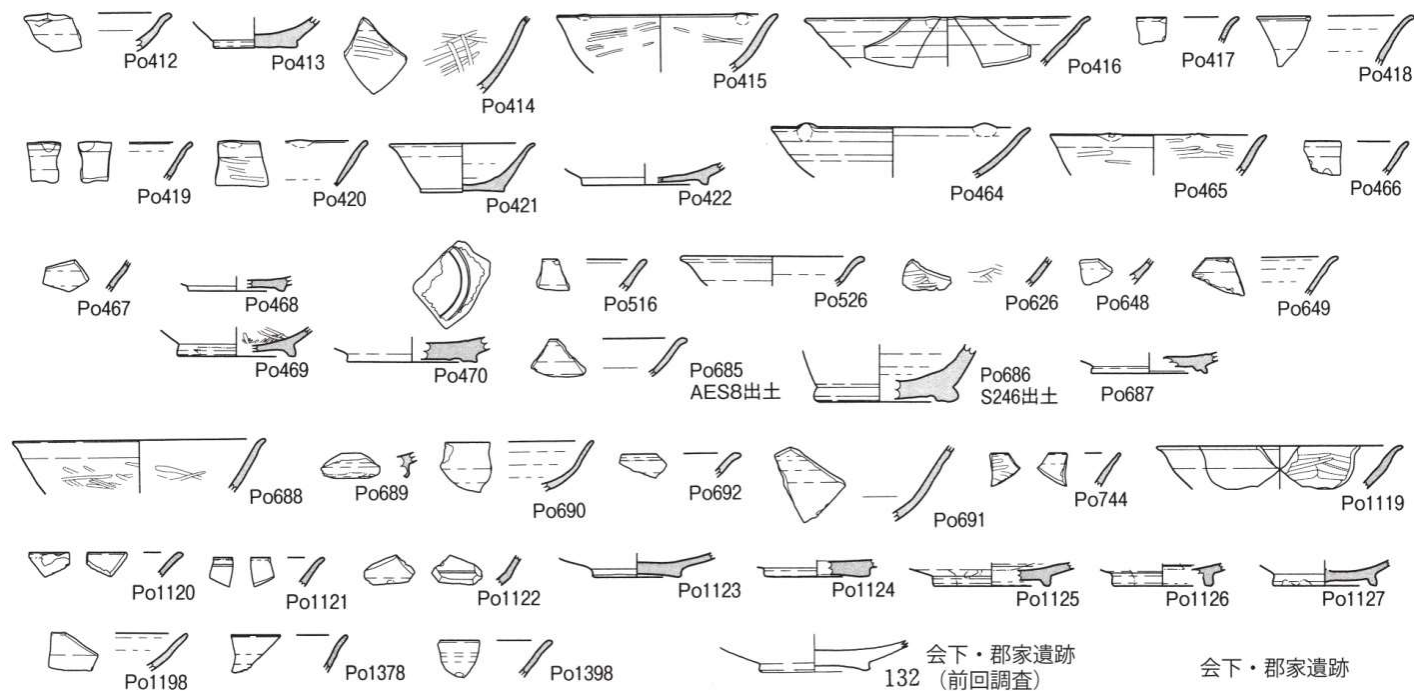


○ 図6上
越州窯系
青磁



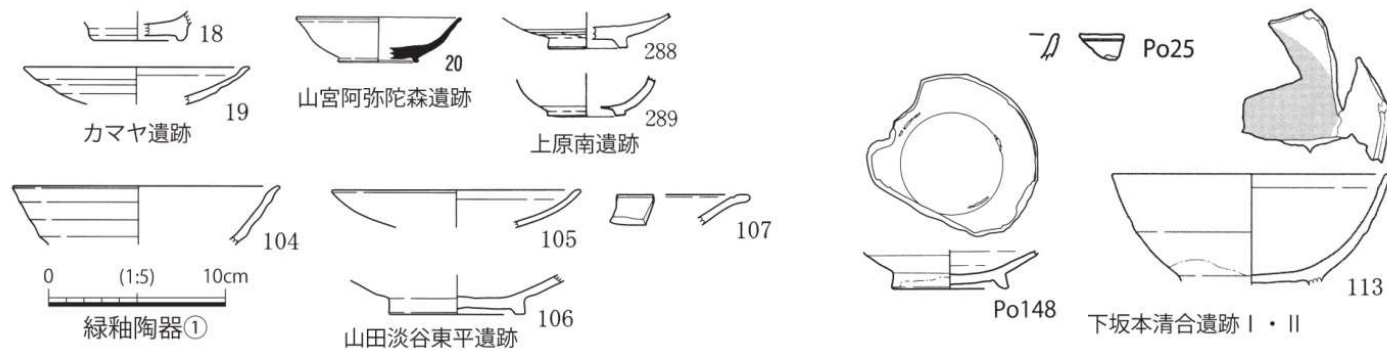


○ 図4上
緑釉陶器

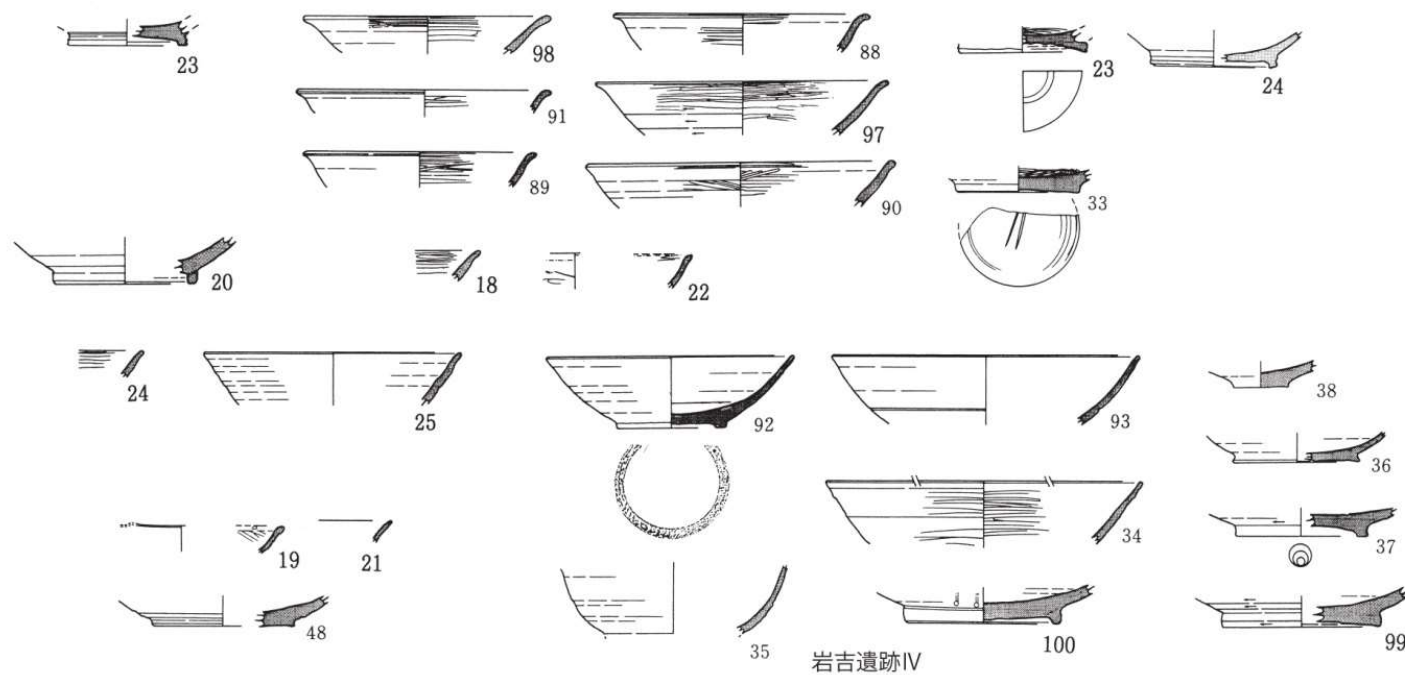


○ 図4中
緑釉陶器



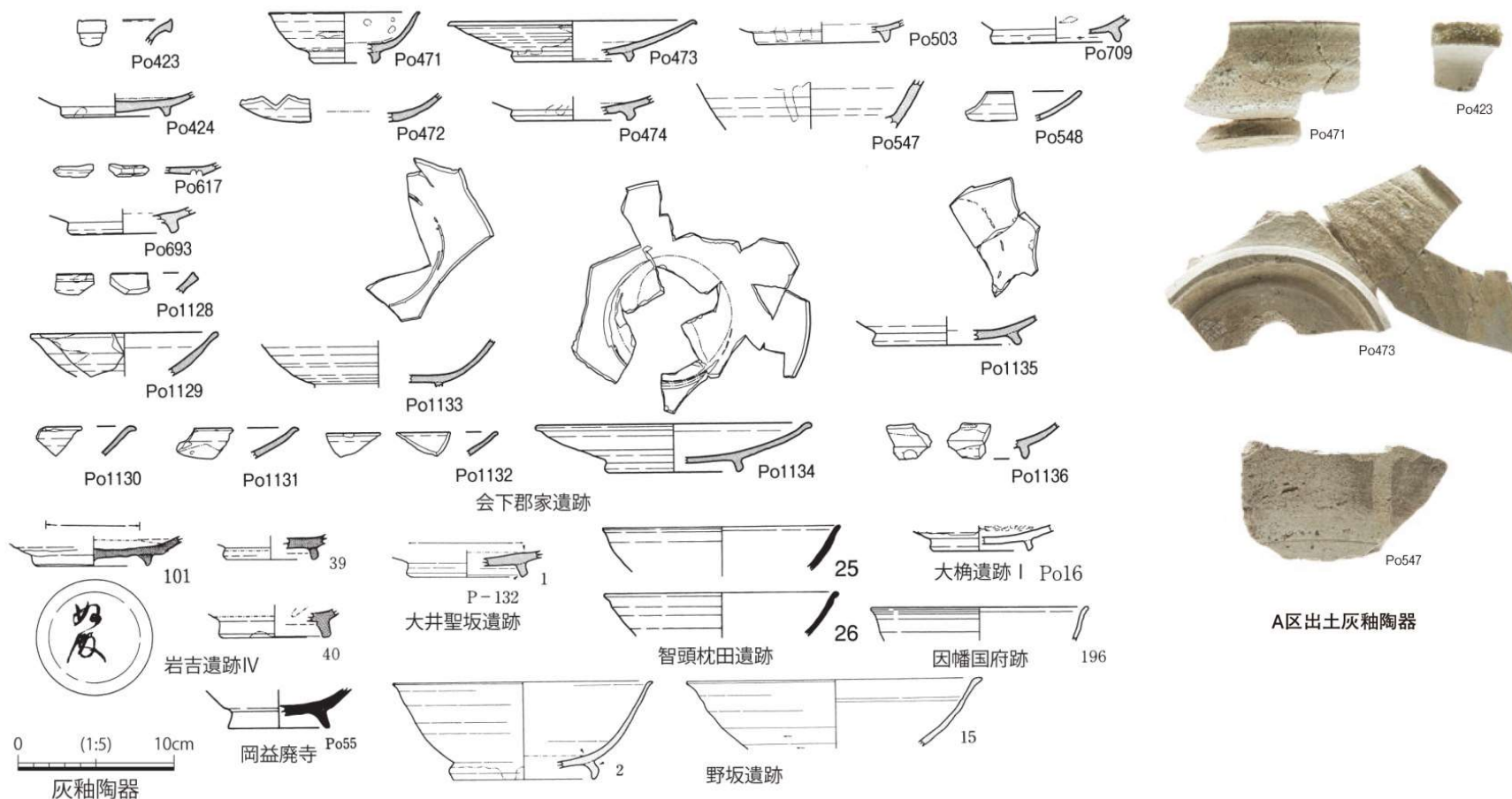


○ 図4下
緑釉陶器



○ 図5上
緑釉陶器





○ 図6下 灰釉陶器

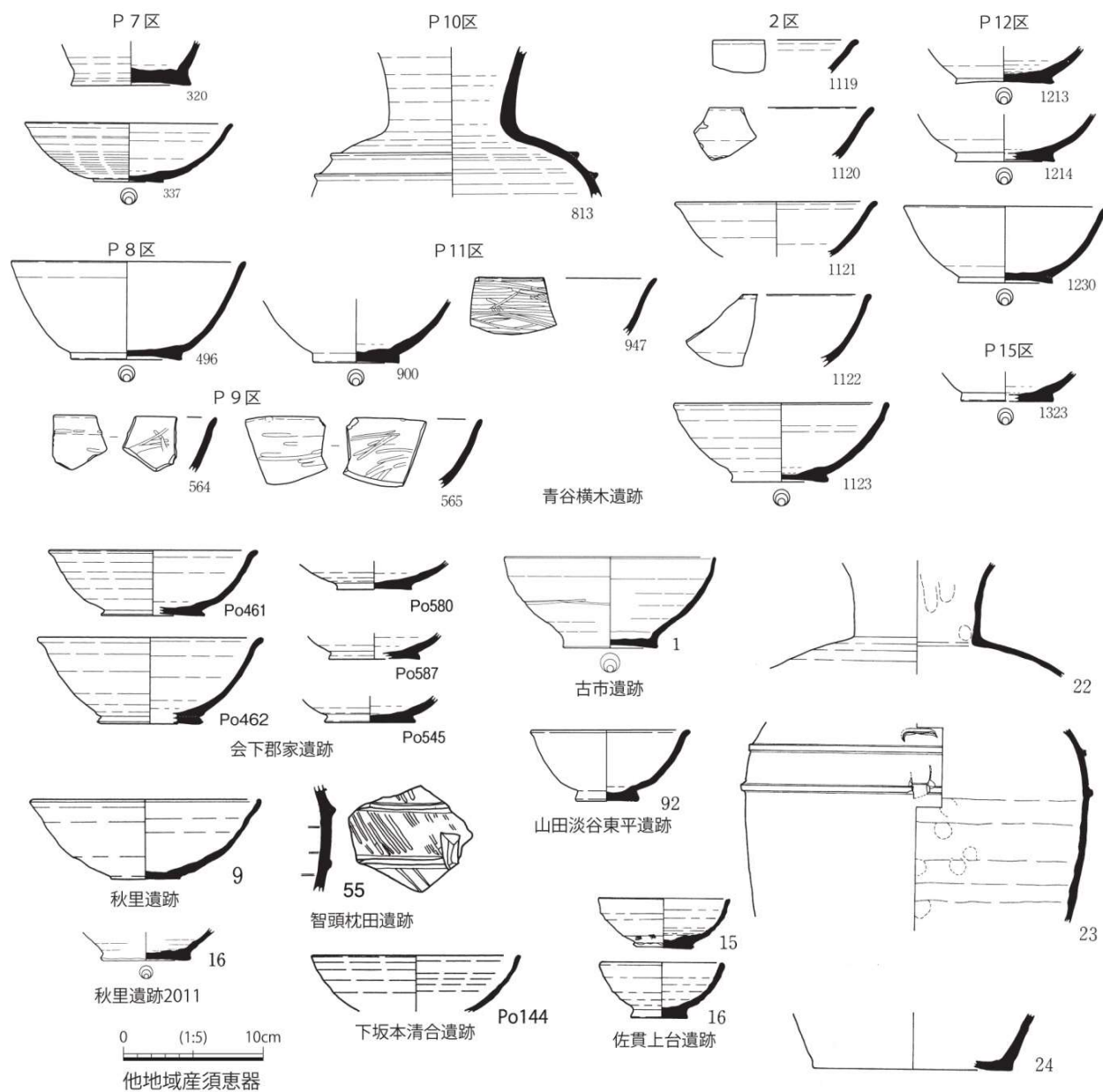
- 灰釉陶器は東日本が中心で西日本での出土は多くない
- 因幡地域では会下・郡家遺跡、智頭枕田遺跡で出土



○ 図10 施釉陶器出土遺跡



○ 図9 黒色土器出土遺跡



○ 八頭町(旧郡家町私都)の山田窯(10世紀代)以降、須恵器窯は確認されていない

○ 11世紀に須恵器を生産していたのは周辺では播磨地域

○ 図7 他地域産の須恵器



○ 図11 他地域産の須恵器出土遺跡

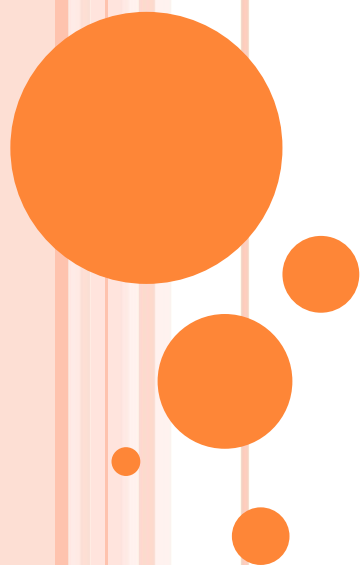


○ 図10 施釉陶器出土遺跡

○ 図12 須恵器・陶器の生産地



3 出土傾向－青谷横木遺跡－



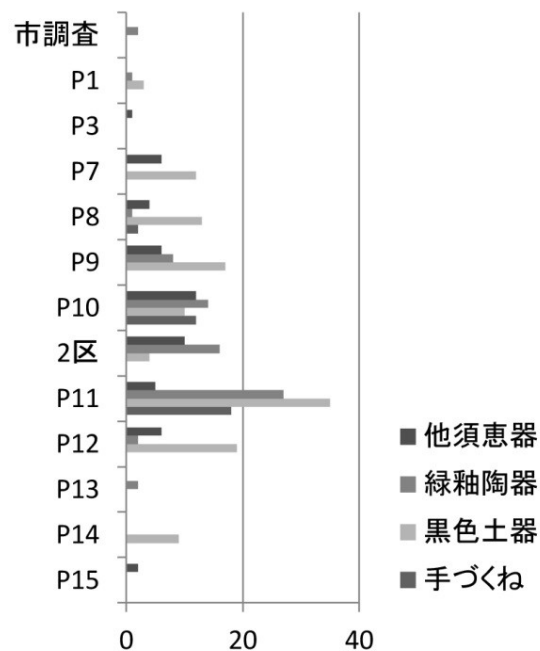
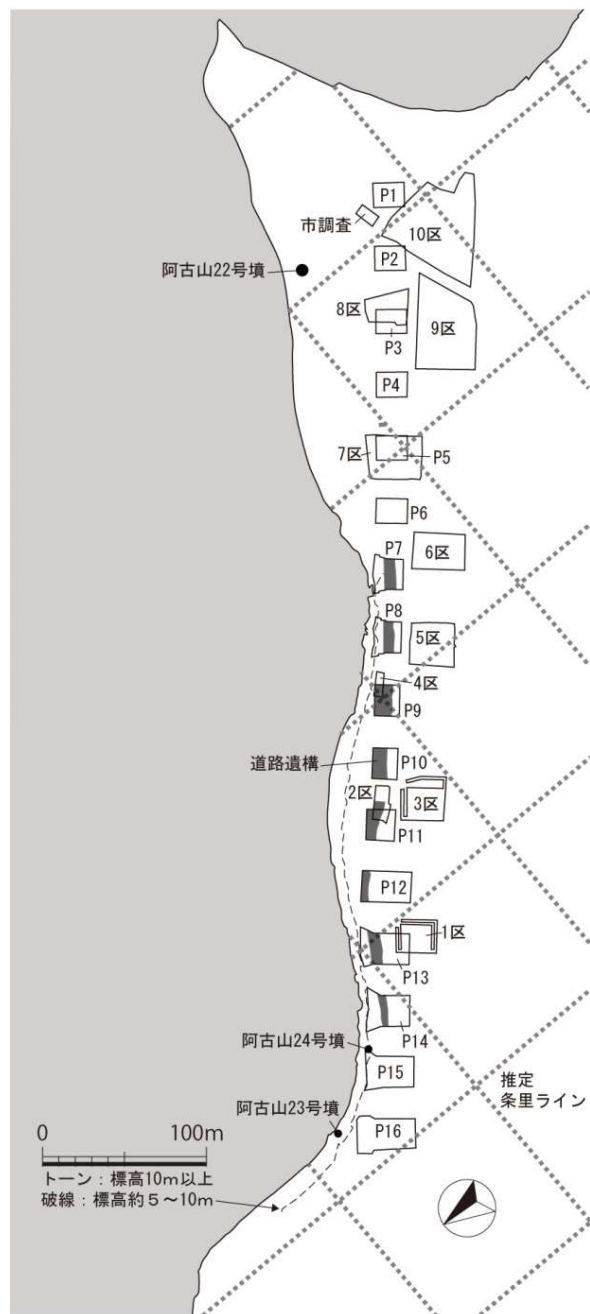
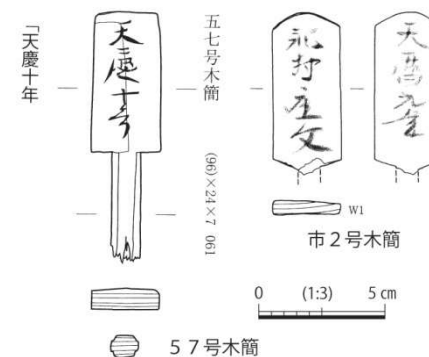


表1 青谷横木遺跡の出土遺物点数（報告書掲載外含む）

	手づくね	黒色土器	緑釉陶器	他須恵	輪状	宝珠他
市調査			2			
P1		3	1		14	32
10区					3	3
P3				1		
P4					1	
P5						1
P6						1
P7		12		6	15	4
P8	2	13	1	4	1	0
P9		17	8	6	17	3
P10	12	10	14	12	42	23
2区		4	16	10		
P11	18	35	27	5	38	1
P12		19	2	6	13	1
P13			2		13	3
P14		9			6	1
P15				2	1	1
P16						1

- P9区からP12区では、手づくね土師器、黒色土器、緑釉陶器、他地域産の須恵器いづれも他の地区よりも多い



- 「天慶十(947)年」・「天曆元(947)年」

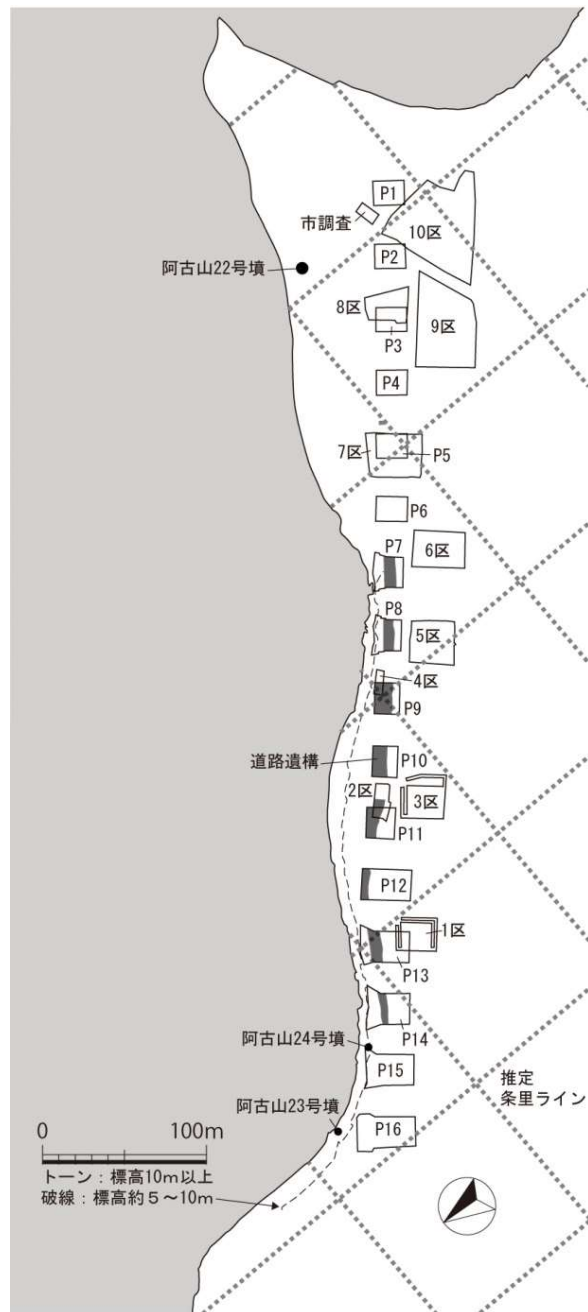
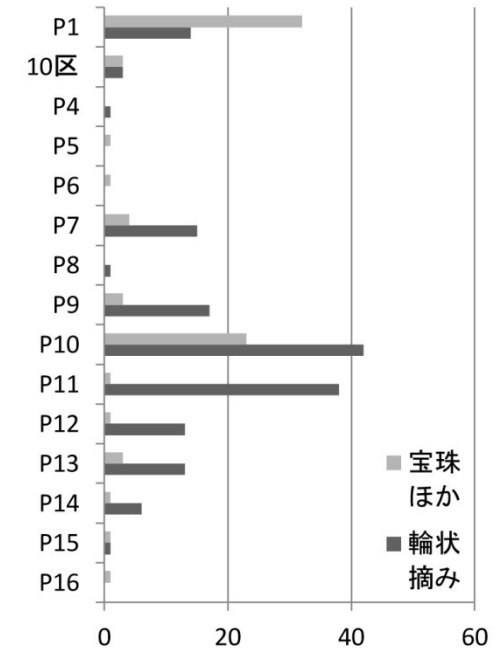


表1 青谷横木遺跡の出土遺物点数（報告書掲載外含む）

	手づくね	黒色土器	緑釉陶器	他須恵	輪状	宝珠他
市調査			2			
P1		3	1		14	32
10区					3	3
P3				1		
P4					1	
P5						1
P6						1
P7		12		6	15	4
P8	2	13	1	4	1	0
P9		17	8	6	17	3
P10	12	10	14	12	42	23
2区		4	16	10		
P11	18	35	27	5	38	1
P12		19	2	6	13	1
P13			2		13	3
P14		9			6	1
P15				2	1	1
P16						1



- 輪状のつまみは出雲地域では7世紀後葉から8世紀前葉に生産
- 宝珠やボタン状のつまみは蓋のつまみが消失する9世紀前半まで

5 まとめ

- 10~11世紀では、施釉陶器は因幡道沿いや官衙などの周辺から出土する。黒色土器の一部は山陰道から持ち込まれたとみられる。
- 青谷横木遺跡から以東(10~11世紀)は、以前の推定ルートより海側を通っていた可能性が高い。
- 青谷横木遺跡の主要な施設は時期により転遷したと考えられる。

おわりに

次回は須恵器を中心に胎土分析を通して分布を確認し、出雲地域や播磨地域の須恵器も含め、生産と移動について検討する予定